

## 第1回定例岡山県教育委員会議事録

- 1 日 時 令和7年4月4日（金）  
開会 13時45分 閉会 14時23分
- 2 場 所 教育委員室
- 3 出席者
- |              |             |
|--------------|-------------|
| 教育長          | 中村 正芳       |
| 委員（教育長職務代理者） | 上地 玲子       |
| 委員（教育長職務代理者） | 服部 俊也       |
| 委員           | 梶谷 俊介       |
| 委員           | 田野 美佐       |
| 委員           | 須江 健治       |
| 教育次長         | 後藤 博幸       |
| 教育次長         | 佐々木 亨       |
| 教育政策課        | 課長 小林 伸明    |
|              | 副課長 小野 敏靖   |
|              | 総括副参事 滝澤 容彦 |
| 義務教育課        | 課長 横山 智康    |
| 特別支援教育課      | 課長 江草 大作    |
- 4 傍聴の状況 0名
- 5 報告事項
- （1） 県教育委員会が所管する公益法人の新規認定について
  - （2） 令和7年度全国及び岡山県学力・学習状況調査の実施について
  - （3） 令和7年度教科用図書選定審議会委員の任命及び諮問事項について
- 6 その他

## 7 議事の概要

### 開会

#### 非公開案件の採決

##### (教育長)

本日の議題の審議に入る前に、議題の公開の可否について決定したい。本日の議題のうち、報告事項（3）は審議会から答申が提出される前に委員を公開することにより、教育行政の公正又は円滑な運営に著しい支障が生じるおそれがあるため、教育委員会会議規則第12条に基づき、非公開とするよう発議する。

委員から、議題を非公開とする発議はないか。

##### (委員全員)

(特になし)

##### (教育長)

この発議は、討論を行わずにその可否を決定することとなっているので、直ちに採決に入る。報告事項（3）は、非公開とすることに賛成の委員は挙手願う。

##### (委員全員)

挙 手

##### (教育長)

全会一致により、本案件は非公開とすることに決した。

#### 報告事項（1）県教育委員会が所管する公益法人の新規認定について

- ・教育政策課長から資料により一括説明

##### (委員)

奨学金給付事業から定時制と通信制を除くのはなぜか。

##### (教育政策課長)

法人の具体的な意図は把握していない。成績と所得を考慮して、対象者を決定するが、どちらかといえば、学業に対して意欲のある生徒を支援したいという思いがある。

##### (委員)

通信制に通っている人も増えており、通信に通っているから学力が低いわけではないと考える。定時制と通信制を除くのは今の時代、違和感がある。

##### (教育政策課長)

公益認定等委員会では、定時制と通信制に通っている生徒を除くことで、事業対象範囲を狭めているとは判断されなかった。

#### 報告事項（2）令和7年度全国及び岡山県学力・学習状況調査の実施について

・義務教育課長から資料により一括説明

(委員)

C B T方式で実施することは、良いことだと考えるが、使い方が慣れていないと戸惑うことが多いと思うが、子供達が練習等をする機会はあるのか。

(義務教育課長)

県の学力定着状況確認テストでは、R 5年度から全てC B T方式で実施しており、中学校理科では実施する前に、質問調査を先にC B T方式で実施するため、ある程度使用については、慣れていると考えている。

(委員)

以前は、質問調査も同じ日に実施していたと思うが、別日に実施したのは、今年からなのか。

(義務教育課長)

サーバーに負荷がかからないように、オンラインに変更してからは、別日での実施としている。

(委員)

全国学力調査は、いつ頃から実施しているのか。

(義務教育課長)

平成19年度である。

(委員)

内容については、知識だけを問うのではなく、思考力や表現力など、現在の学習指導要領に沿った内容に変化しているのか。

(義務教育課長)

実施教科や方法、その時々で求められている学力は、常に変化しており、国も学習指導要領を見直し、その時代に応じた問題になっている。

(委員)

単純に知識や正解を求めるだけではなく、変化している問題の特色や特徴があれば知りたい。

(義務教育課長)

一問一答方式ではなく、例えば算数の問題の場合、算数の知識だけでなく、国語や理科の知識を使って解くような問題など、色々な角度から考える必要のある問題へと変化している。

(委員)

今後どう変化していくのか興味がある。

(義務教育課長)

国立教育政策研究所においても、毎年実施した内容をみて、不足している箇所や、強化すべき箇所を協議し、問題を見直している。

(委員)

長期欠席や不登校となっている生徒への対応はどうなっているのか。

(義務教育課長)

別日で実施も可能である。

(委員)

実施期間中に登校できていない子供の場合、試験を受けないこともあるのか。

(義務教育課長)

そういった場合もある。

(委員)

国の調査がどうでるかで、公表の仕方を変えるという認識で良いか。

(義務教育課長)

その通りである。

以 下 、 非 公 開 の た め 省 略

閉会